

消費税率引上げ後の消費動向等 について（7月第1週）

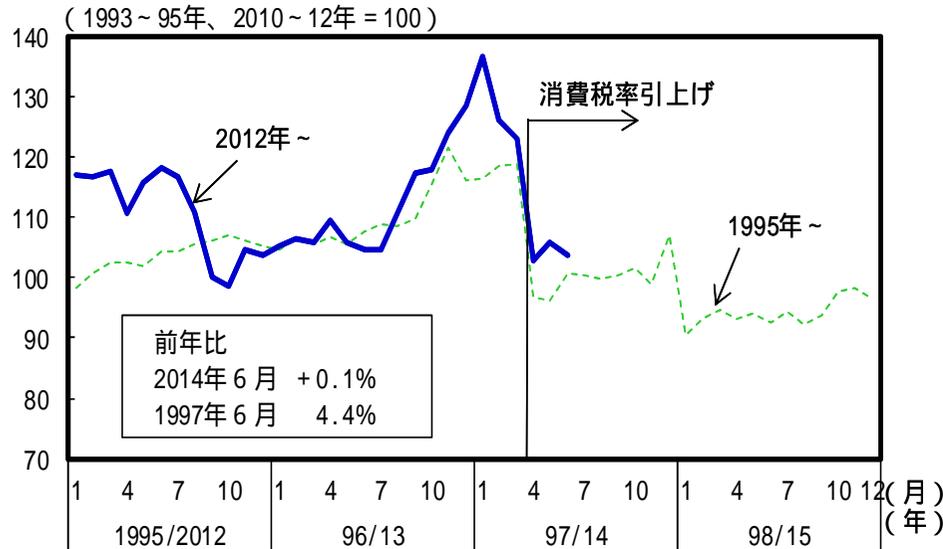
平成26年7月11日

内閣府

自動車・家電販売の動向

自動車販売は、6月は前年比でほぼ変わらずとなった。また、受注台数の前年比マイナス幅は、足下で縮小の兆しをみせている、との声も聞かれる。

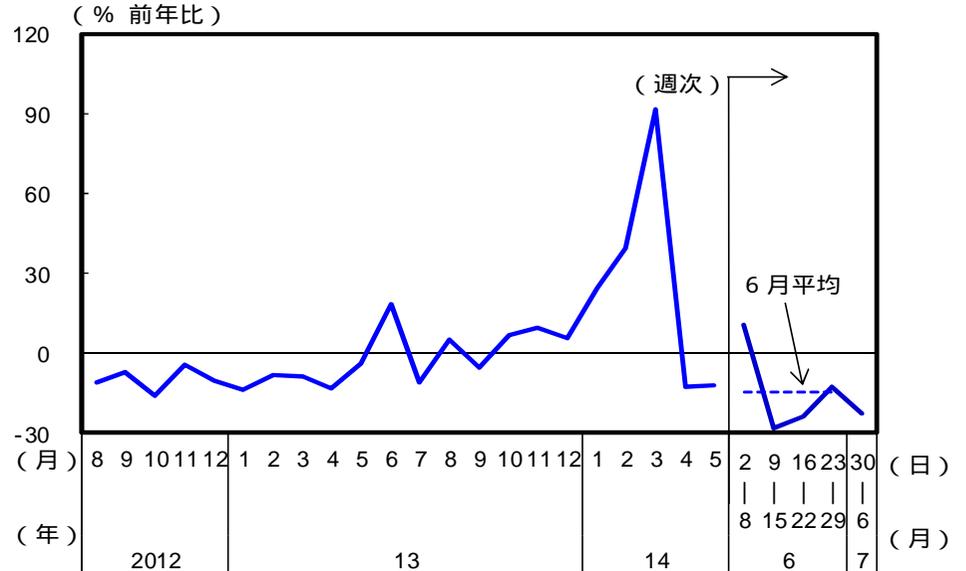
新車販売台数（含軽）（1997年頃との比較）



(備考) 1. 日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会により作成。
2. 内閣府による季節調整値を指数化したもの。

主要5品目の家電販売は、7月第1週では、気温が低かったことから、前年比23%程度減と先週よりマイナス幅が拡大。しかし、天候の影響を除けば、反動減から持ち直しつつある、との声も聞かれる。

家電販売金額（家電量販店主要5品目）（税抜）



自動車販売台数（除軽、登録ベース）について、7月第1週（1日～4日）は前年比でみると、先週とほぼ変わらずとなった。ボーナスの影響も現時点では現れていないことなどから、もう少し慎重に様子を見る必要がある。

【業界団体 A】

軽自動車販売台数（届出ベース）は、前年に新型車が出ていたこともあって、6月に引き続き前年比マイナスとなっているが、月初なのでもう少し時間をかけてみる必要がある。

【業界団体 B】

7月第1週は、気温が低かったことから、エアコンが不調だったため、主要5品目では、前年比マイナス幅が拡大。なお、全カテゴリーでは、前年比15%と、先週とほぼ変わらず。エアコン以外の品目は、徐々に回復してきており、天候に左右されるエアコンの売れ行きが売上全体を押し下げている。

【市場アナリスト】

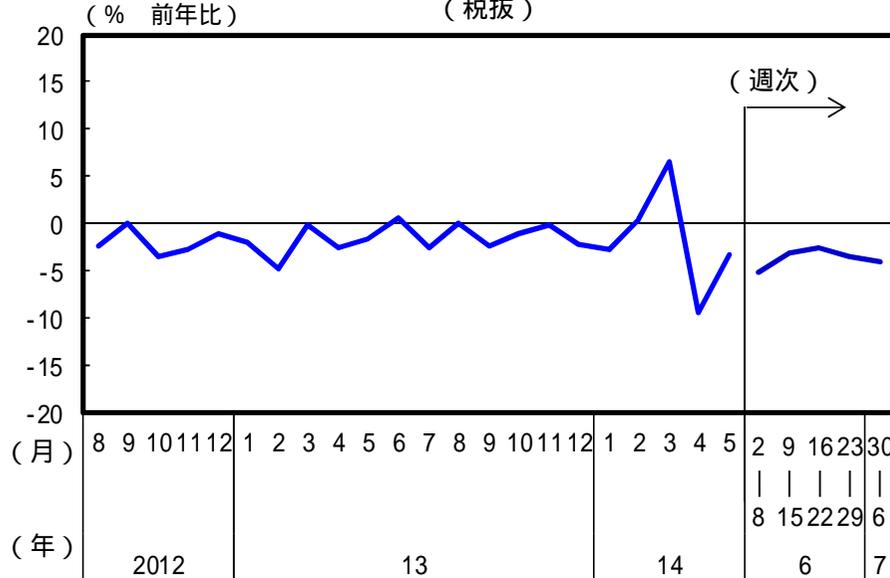
7月第1週は、気温が低かったことから、エアコンが不調で、前年比2割程度とマイナス幅が先週より拡大。しかしながら、天候の影響を除けば、反動減からほぼ持ち直している、と認識している。

【家電量販店】

飲食料品・百貨店・サービス販売の動向

飲食料品は、7月第1週では、前年比約4%減と先週からほぼ変わらず。反動減から持ち直している、との声も聞かれる。

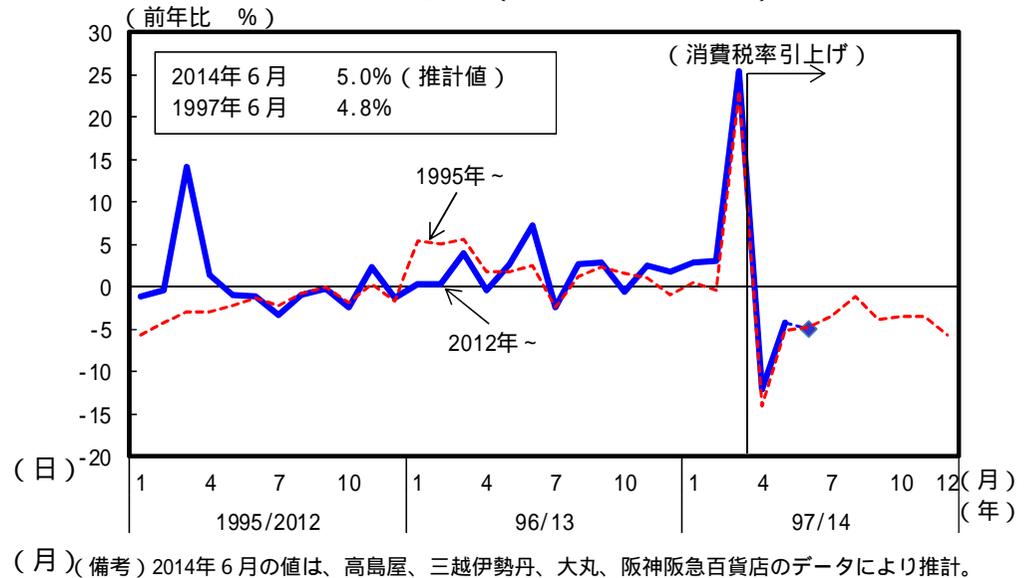
飲食料品（除く生鮮食品）販売金額（スーパー）
（% 前年比）（税抜）



(備考) 1. KSP（全国の食品スーパーマーケット販売実績を調査・集計）により作成。
2. 加工食品、飲料・酒類、菓子類の3品目の合計。税抜き価格ベース。
3. 既存店ベースのため、前年比が低めに出る傾向がある。
4. 6月30日～7月6日のデータは、速報値。

首都圏の大手百貨店の売上は、7月第1週では、雷雨に見舞われた先週に比べ、前年比減少幅が縮小したが、セールの出足はあまり良くない、との声もある。

百貨店売上高（税抜、既存店ベース）



(備考) 2014年6月の値は、高島屋、三越伊勢丹、大丸、阪神阪急百貨店のデータにより推計。実績値は日本百貨店協会資料。

7月第1週は、前週より前年比プラス幅がやや拡大。7月第2週は台風の影響を心配している。最近の売上は、主に天候に左右されていることもあり、反動減からは持ち直している、と認識している。【食品スーパー】

サービス消費は、旅行は、6月以降も堅調に推移するものとみられる。外食は、消費税率引上げの影響は軽微であり、7月第1週も引き続き好調との声も。

売上高の前年比プラス幅は、先週に比べて若干縮小しているが、高価格帯商品の販売も好調で、大きな変化はない。【外食チェーン】

7月第1週の売上前年比は雷雨があった先週に比べて改善した。ただし、昨年に比べて涼しかった影響もあり、衣料品の動きはあまり良くなかった。セールは、前年比微減の水準で推移。7月中旬以降にセールを開始するブランドも一定数あるので、様子を見たい。【百貨店A】

7月第1週の売上前年比は、先週に比べて改善した。なお、季節物の衣料品（いわゆる夏物）は、主に天候要因で売上が変化すると考えている。【百貨店B】